

好評発売中!

ご注文は JRC へ FAX 03-3294-2177

キネマの玉手箱 大林宣彦 著

【新刊】ISBN 978-4-9911368-0-1 四六判 / ソフトカバー 定価：本体 1,500 円 + 税

静かに広まる大林監督のメッセージ

大林監督の最新作「海辺の映画館—キネマの玉手箱」の公開にちなみ、さまざまな媒体様に取り上げていただいております。

朝日新聞 (7/10)

くらしの百科 (10月号)



2016年8月に肺がんで「余命半年」と告知されながらも映画を撮り続けた大林監督が、がん患者や映画作家、戦争体験者などとしての人生哲学をつづった。



「生命の章—病と闘う者として」「虚実の章—自主映画の作家として」「非戦の章—敗戦国の軍国少年として」「未来の章—未来を生きる人として」、それぞれの視点で人生哲学が綴られています。



キネマの玉手箱
大林宣彦

キネマの玉手箱

大林宣彦

余命半年を宣言された映画作家の人生哲理

見上げれば、空に三本の虹がかかっていた。一本の虹ならよく見られるけれど、三本の虹なんてそう滅多にお目にかかれるものではない。人生最高の虹。とてもいいことがありそうだという予感がした。

是枝裕和「あれから三十年、僕はずっと大林マジックにかかっているのかも知れません」
卒業と入学の季節に 定価：[本体1500円]+税 ユニコ舎

日本の映画界に輝かしい功績を残し、4月10日に逝去された映画作家・大林宣彦氏の、未来に託すラストメッセージ集です。

概要

- ◆生命の章 病と闘う者として
- ◆虚実の章 自主映画の作家として
- ◆非戦の章 敗戦国の軍国少年として
- ◆未来の章 未来を生きる人として

- * 特選クラシックシネマ 15 選
- * 装画：森泉岳土
- * あとがき：是枝裕和



「キネマの玉手箱」
大林宣彦
「昭和30年代を生きる少年『さびしんぼう』の『海辺の映画館』。いろいろな年代の映画青年にリスペクトされた大林宣彦監督は、2016年8月に肺癌を診断。ステージ4まで進行する中、2本の映画を製作。これは今年4月に亡くなる直前まで撮られた断片断片であり、映画人生を振り返った自伝であり、未来に向かう日本人への熱いメッセージでもある。
ユニコ舎 1,500円

クロワッサン (9/25号)

これは今年4月に亡くなる直前まで語られた闘病記であり、映画人生を楽しんだ自伝であり、未来に向かう日本人への熱いメッセージでもある。

読売新聞 (9/13)

〈とんでもないことになっている!〉と叫ぶしかない。映画作家・大林宣彦の遺作『海辺の映画館—キネマの玉手箱』は常識を常識をぶち壊す。今すぐ映画館に駆けつけて頂きたい! が、その前に、肺癌で余命半年を宣告されても4年近く生きた今年4月、82年の生涯を閉じた彼の遺書での予習をお勧めする。〈戦争は嫌だという実感だけは伝えよう〉とするフォロソフィーを持つ軍国少年として、〈映画で歴史は変えられんけど、歴史の未来は変えられるんかもね〉と書く未来人として、彼は虚実の皮膜をあやつる魔術師であり続けた。(中略) 丁寧につくられた本書に登場する作品を見るたび、作家は何度でも生き返るだろう。(評者：鈴木洋仁)



しんぶん赤旗 (8/23)

今年4月10日に亡くなった映画作家・大林宣彦監督が自分の人生哲理を書き上げた1冊です。(中略) 大林監督は、この本の中で経済的理由から戦争を推進する勢力があることを承知の上で、戦争という狂気に対抗する“正気”を映画は描かなくてはならないと述べています。(中略) 一貫しているのは、戦争は2度とごめんだという思いです。映画の果たすべき責務についての監督の思いを引き継いでいきたいと思っています。(評者：林毅)

このほかにも「尾道新聞」「東京人」「地域人」などにも紹介されました。



番線印	ご担当	ご注文	発行：ユニコ舎
	様	冊	<h2>キネマの玉手箱</h2> <p>大林宣彦 著 定価：本体 1,500 円 + 税 ISBN 978-4-9911368-0-1 四六判 / ソフトカバー 206 頁 (本体)</p>

株式会社 JRC 経由で、すべての取次への出荷が可能です。返品は長期に承ります

発行：株式会社ユニコ舎 TEL：03-6670-7340 FAX：03-4296-6819 東京都世田谷区船橋 2-19-10 ポー・プラージュ 2-101